

研究課題：「高齢者の自主グループ活動におけるネットワークの継続・拡大に関する介入研究」

代表研究者：藤原 佳典(東京都健康長寿医療センター 研究副部長)

1. 研究の背景と目的

活動的な高齢者においては、趣味やボランティアサークルを通じた交流により相互の安否・健康状態の定期的な確認や、抑うつ予防など安全・安心な生活への波及効果が期待されている。しかし、これまでの研究の知見からは「ネットワークが豊かなことは心身の健康に好影響を与える」といった総論的な結論を得ることはできるが、ネットワークを充実させるための実践的な方法とその効果を提示することは困難である。

本研究では、ボランティア個人のソーシャルサポート・ネットワークの変化を明らかにすることを目的とし、高齢者によるボランティアグループに、グループの拡大・連携を目的とした介入を行った。具体的には、ボランティアネットワークの横断的継続・拡大のための介入（同族ボランティア間のネットワーク形成）と、ボランティアネットワークの縦断的継続・拡大のための介入を行った。

「りぷりんと」とは、代表研究者らが、2004年度から厚生労働科学研究費補助金・長寿科学総合研究事業「高齢者の社会参加・社会貢献の増進に向けた介入研究」等により展開してきた60歳以上の高齢者ボランティアによる世代間交流型シニア読み聞かせボランティアプログラム、“REPRINTS”のことである。2004年度から、東京都中央区、神奈川県川崎市多摩区、滋賀県長浜市の3地区においてボランティアを養成した。ボランティアは、6～10人の小グループに分かれ、地域の公立小学校（学童・児童館・養護学校含む）、幼稚園・保育園、中学校に定期的に訪問し、「絵本の読み聞かせ」活動を実施している。各エリアで毎年、新規にボランティアを募集・育成し、2009年9月現在、中央区50名、多摩区47名、長浜市67名の会員が、それぞれ15施設、10施設、10施設の受入れ施設にて活動している。また、以上3エリアの他に2006年より地元NPOを主な支援母体とした、「りぷりんと・すぎなみ」が活動を開始し、現在44名の会員が9施設にて活動している。

2. ボランティアネットワークの横断的継続・拡大のための介入と成果

4エリアで行われている「りぷりんと」プログラムを横断的にネットワークするための介入として；1)「りぷりんと」各エリアの自主運営化、2)「りぷりんとネットワーク」の運営、3)「りぷりんと」交流研修会の開催、を実施した。

(1) 「りぷりんと」プログラム各エリアの自主運営化に向けた介入

これまで3エリアの「りぷりんと」プログラム（中央区、川崎、長浜）は、東京都老人総合研究所（現東京都健康長寿医療センター研究所）の研究助成金によって運営されていたが、2007年に任意団体として自主運営化に踏み切った。各エリアは、自主化準備委員会を結成し、会則の草案作成に着手、その後役員を選出し、規約、活動計画、収支計画を作成した。中央区では2007年3月、多摩区では同4月に第一回ボランティア総会を開催し、新役員と会則案が承認された。

(2) 「りぷりんとネットワーク」の設立と運営

「りぷりんと」活動はエリアごとに活動をしており、エリア間の連携はとられていなかった。そこで、エリア間の連携をはかることで広域な地域間ソーシャルサポートを醸成するために、各エリアを包括する「りぷりんとネットワーク」を2007年12月に組織した。「りぷりんとネットワーク」は各エ

リア団体の上位団体ではなく、各エリア団体が共通のミッションの元に対等な立場で緩やかにつながった組織である。

同ネットワークは、現在までに；1) 14回の理事会の開催、2) 規約の作成、3) 「りぷりんとネットワーク」としての外部資金（事業助成金）獲得、4) 研修委員会の組織、5) 「りぷりんと」ボランティア養成講座のカリキュラムとテキスト作成、6) 「りぷりんと」ボランティアの認定プロセスについての協議、7) ホームページの作成、8) ニュースレターの発行、などを活動として行ってきた。2009年度は、9) 出版事業を中心とした活動を行っている。

(3) 「りぷりんと」交流研修会の開催

エリアのボランティア同士が交流することで、ネットワークを促進することを目的として、交流研修会を実施した（表1. 交流研修会の開催実績 参照）。

表1. 交流研修会の開催実績

開催時期	交流団体	内容・目的
2007/12/17	長浜、中央区、川崎	各エリア間での交流研修会開催
2008/2/25	川崎、中央区	「山崎翠先生の講演会」開催
2008/4/14-16	長浜、中央区	長浜交流研修会の開催
2008/11/19	中央区、川崎、杉並	「小澤俊夫先生の講演会」開催

(4) エリア間のソーシャルサポートに関する評価と結果

上述した一連の介入によって、「りぷりんと」ボランティアのソーシャルサポートに変化があったかを明らかにすることを目的として、「りぷりんと」ボランティアを対象（n=68）に、エリア間のボランティア同士のソーシャルサポートの授受についてアンケート調査を実施した。調査実施時期は、介入前（2007年12月初頭）と介入後（2009年3月）である。調査項目は、情緒サポート、手段的サポート、情報サポートの授受、ネガティブサポート（いらいらさせられる等）の受領について、である。

介入前と介入後のソーシャルサポートの変化を、対応のあるt検定にて分析したところ、役員群（「りぷりんとネットワーク」理事会に出席する各エリアの正副代表と研修委員15名）においては、情緒サポート（ $p=0.06$ ）と情報サポート（ $p=0.07$ ）を他エリアの会員から受けやすくなった、また、他のエリアの会員の用事を引き受けてあげると言った手段的サポートの提供（ $p=0.09$ ）が行われやすい環境が醸成されつつある、といった傾向が伺えた。しかし、同時に、イライラさせられる、文句を言われるようになったといった、ネガティブサポートも認識（ $p=0.02$ ）されるようになったことが明らかになった。一方で、これら役員群以外の一般の「りぷりんと」ボランティア（n=53）においては、いずれのサポートの授受においても変化は見られなかった。

(5) ネットワーク化によるボランティアリーダーへの影響に関する評価と結果

一連の介入による4エリア間のネットワーク化が、ボランティアリーダーおよびその活動にどのような影響をもたらしているかを明らかにすることを目的として、「りぷりんとネットワーク」の理事会に参加する各エリアの正副代表合計10名（男性6名、女性4名：年齢60-77歳：活動期間6ヶ月-4年）を対象に、フォーカスグループインタビューを行った（2008年12月実施）。インタビューの内容は逐語録におこし、分析には、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチの手法を部分的に用いた。

分析の結果、シニアボランティアのネットワーク化は、個々のボランティア団体（エリア）の活動の幅を広げたり、会員に自信をもたらす、外部からの資金などを得られやすくする、他のエリア団体との意見や経験の共有などを通じて、個々のエリア団体の組織基盤の強化に寄与していることが明らかとなった。しかし同時に、ネットワークが存在することで事務手続きが煩雑になったり、活動が画

一化・制限されるのではないかという懸念を生み出していた。したがって、組織がある程度の規模になると、いかに合理的・効率的にネットワークを管理するかが課題となる。

3. ボランティアネットワークの縦断的継続・拡大のための介入と成果

ボランティアネットワークの縦断的継続と拡大のための介入として；1) 「りぷりんと」ボランティアの新規募集と養成、2) 現ボランティアのリーダー養成講座、を行った。

(1) 「りぷりんと」ボランティアの新規募集と養成

読み聞かせボランティア応募者へ、新人ボランティア養成講座を行った。主な内容は、「りぷりんと」活動について、読み聞かせ方法、ボランティア論などであった。実施実績は表2の通りであり、カリキュラム内容は表3の通り（一例）のとおりである。

表2. 新人ボランティア養成講座の実績

地区	開催日程と回数	参加人数(延べ)	ボランティア登録者数
中央区	2008/10/6-2009/1/26 (8回)	248名	15名
川崎	2008/10/15-2008/12/3 (8回)	56名	7名
長浜	2008/7/14-2008/9/1 (8回)	116名	11名
杉並区	2008/5/27-2008/9/30 (8回)	160名	12名

表3. 新人ボランティア養成講座のカリキュラム内容（例：中央区）

	講座内容（講師）
第1回	「りぷりんと」プロジェクトとは（藤原佳典）、読み聞かせのカーシニアいきいき健康づくり（山崎翠）
第2回	ボランティア読み聞かせ-きほんのき（植田たい子）
第3回	読み聞かせの実技・絵本を知る1-まず昔話の世界-（熊谷裕紀子）
第4回	読み聞かせの技術と知識-発声法・呼吸法-（熊谷裕紀子）
第5回	グループ活動のABC-関係作りのためのグループセッション（深澤里子、安永正史）
第6回	読み聞かせの実技・絵本を知る2-創作絵本-（植田たい子）
第7回	読み聞かせの実技・絵本を知る3-乳幼児と絵本-（植田たい子）
第8回	読み聞かせの実技・絵本を知る4-科学絵本を知る-（植田たい子）

(2) 「りぷりんと」リーダー養成講座の実施

組織運営の核となる人材を養成することを目的として、現ボランティアを対象として、読み聞かせ法上級編、語り法などについてのリーダー養成講座を、3エリア（中央区、川崎、杉並区）で実施した。実施実績は表4のとおりであり、カリキュラム内容は表5（一例）のとおりである。

表4. リーダー養成講座の実績

地区	開催日程と回数	参加人数(延べ)
中央区	2008/12/6-2009/3/7 (4回)	174名
川崎	2008/10/29-2009/3/21 (3回)	98名
杉並区	2008/10/7-2008/1/27・2009/1/6-2009/3/10 (15回)	175名

表5. 新人ボランティア養成講座のカリキュラム内容（例：杉並区）

	講座内容（講師）
第1回	絵本の感動を伝えたい私の心（山崎翠）
第2回	「りぷりんと」感動の意義を確認しよう（藤原佳典）
第3回	肉声表現の技術とトレーニング方法（熊谷裕紀子）
第4回	絵本の選び方と扱い方の練習（植田たい子）
第5回	いま、グループ活動で困っていることは？（深澤里子）
第6回	「りぷりんと」中央区の実践から学ぶ（山田源次）
第7回	あなたにとっての「りぷりんと」活動とは（大場宏美）

(3) 新人ボランティア養成講座に関する評価

新人ボランティア養成講座(以下、「講座」とする)に関する各エリア団体の意見を中央区、杉並区、及び川崎の代表を対象とした面接調査により抽出し、その効果と課題を検討した。高齢者によるボランティア団体では有能な人材の確保が組織の維持に不可欠である。そこで、実践活動を意識した講座内容とし、受講生の意欲を高めることに努めた結果、スキルの高い即戦力になる人材を得ることができた。更に、現役ボランティアが講座に受講生のアドバイザーとして加わり、受講生の活動への不安の軽減に努めた。これは、現役ボランティアと新人ボランティアの信頼関係を醸成し、新人の定着率を高めると同時に、その後の円滑な組織運営につながると言う波及効果が見られた。

今後の検討課題として、講座の実施形体と頻度が挙げられる。講座は講師謝礼等の費用の点から実施回数が1年に1回に限られるが、人材確保の点からは随時募集がのぞましい。「りぷりんと」活動は、読み聞かせのスキルと児童を対象とすることへの適正が重要なため講座受講は必須である。そこで、現在は各エリアで個別に実施されている新人講座を「りぷりんとネットワーク」主催で共同実施する等の提案もだされた。一方、各エリアでの年度単位の講座の実施は各期の受講者間での同期としての仲間意識を醸成し、安定的な組織構成に寄与している。したがって、随時募集による組織維持と期単位の募集による安定的な組織運営のバランスをもって講座の実施方法を検討する必要がある。

4. まとめ

高齢者によるボランティア組織の自主運営化とネットワーク化の介入研究により、各エリア団体の組織基盤が強化されることが示唆された。まず、各エリア団体の自主運営化に向けた組織体制の整備や規約作り等の過程により自主運営組織としての基盤が醸成されたと考える。また、目的を共有する各エリア団体をネットワークとしてつなぐ過程において、その基盤づくりの作業や、助成金獲得による活動資金の増強等を通して、各エリア団体の組織基盤が一層に強化された。

一方で、ネットワークの今後の安定的な運営における課題も明らかになった。「りぷりんとネットワーク」は対等な団体が緩やかにつながる車座型であり、ネットワークを一括管理したり意思決定をするシステムを持たない。そのために、外部資金の獲得による事務手続と財務管理が各エリア団体の役員に集中し、役員の負担感を増す結果になった。また、ネットワークとしての意志統一が困難な状態も散見された。

合理的なネットワークには上位組織を有するピラミッド型が望ましいと考えられるが、それはこれまで蓄積してきた各エリア団体の独自性を制限することにつながる。したがって、いかに車座型のネットワークの良さを残しながら、合理的・効率的なシステムを構築できるかが、今後の組織の発展の鍵となる。そのためには、まず「りぷりんとネットワーク」の役割と権限の明確化が重要になると考える。そして、「りぷりんとネットワーク」理事会を構成する各エリア団体の役員はその枠組みに基づき、ネットワークと各エリア団体を運営していくべきであろう。さらに、ネットワーク内での議案の決定方法や、その他ネットワーク機能の維持により派生する事務作業の手順の明確化(マニュアル化等)と帳票の作成が必要であると考え。ネットワーク化の影響に関するアンケート調査により、「りぷりんとネットワーク」理事会に出席する役員の間での支援関係が構築されつつあることが明らかになっている。このことは、役員間の意思疎通が潤滑になりつつあることを示唆しており、これらの基盤を整えることで高齢者が運営する団体であっても、合理的・効率的なネットワークのシステムの運営が可能と考える。